

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2008年7月

## 平成19年度規格部会報告

規格部会(ISO/TC 61、ISO/TC 138及び電気材料安全関係)は、日本工業標準調査会(JISC)標準部会策定の「平成18年度標準化政策」及び「国際標準化戦略目標」に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。ここでは、平成19年度の活動実績および平成20年度の活動計画を紹介する。

### 1. 国際幹事国引受け

平成18年4月に、懸案のISO/TC 61/SC 13(複合材料及び強化用繊維)の議長および国際幹事を獲得した。当面は、幹事国引き受け件数4件で、内容の充実を図りながら遂行していく。

### 2. 国際幹事国活動

TC 61/SC 11(プラスチック製品)、SC 12(熱硬化性樹脂)及びSC 13(複合材料及び強化用繊維)の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を行なう。

ISO/TC 61国際会議は、今年度はアメリカ・オーランド(9月20日～9月26日)で開催され、日本が議長を務めるSC 11、SC 12及びSC13会議の円滑な開催・運営を図る。

### 3. 国際標準提案活動

平成19年度の日本発の国際標準提案は、新規1テーマと継続6テーマの計7件の提案の進展を図ってきた。案件は以下の通り。

- ① 発泡プラスチック試験における状態調節条件の改正(継続)
- ② 複合材に関する火災安全評価規格の提案(継続)
- ③ 接着接合木製品の試験方法(継続)
- ④ フィルム及びシート - 水蒸気透過度試験方法の提案(継続)
- ⑤ PP試験片の作り方及び性質の求め方規格の改正(継続)
- ⑥ PPE材料試験方法の改正(継続)
- ⑦ PS材料規格の制定(新規)

この内6件は、初期の目標達成が見込まれるため、平成19年度で終了する。残りの1件と新たな新規提案1件とを含めて2件の日本提案の開発・進展を図っていく。

### 4. 研究開発事業及び調査研究

#### ① プラスチックリサイクル

はじめてのプラスチックリサイクルの国際規格提案を円滑に推進するために、再生PET原料の品質分類規格および試験方法規格並びにPETシート製品規格の3つの新規提案のNWIP採択とそれに続く規格開発を確実に進める。

#### ② 混合ポリオレフィンの標準化

平成20年度から始まる研究開発事業を計画している。これによって、品質の標準化を可能とし、これまで停滞していた当材料のリサイクルが加速され、国際的な環境ニーズに貢献することが期待できる。

### ③ RPFのJIS作成調査研究

引き続きプラスチック廃棄物の再商品化手法の一つであるRPF（プラスチック・紙固形燃料）に関するJIS原案作成調査を行う。平成20年度は、最終年度として残された課題の詰めを行い、規格原案の完成を目指す。

## 5. 有効なJISの絞込み徹底

JIS策定における品質向上、効率的制定を目指し、JIS制定必要性の厳選化とJIS原案品質レベルアップを継続していく。

平成19年度のJIS原案作成では、区分A(H19年4月～H20年3月)9規格及び区分B(H19年8月～H20年7月)4規格(区分Cは、なし)を取り組んできた。

区分A（制定4件、改正5件）

- ① 繊維強化プラスチック 制定1件
- ② 熱可塑性プラスチック管及び継手 制定2件
- ③ 包装用ポリプロピレンフィルム 改正2件
- ④ 包装用ナイロン及びPETフィルム 改正2件
- ⑤ 試験片の形状及び作製 制定1件
- ⑥ 残留スチレン分析 改正1件

区分B 4規格(制定3件、改正1件)

- ① 塩化ビニル試験法 制定1件
- ② ポリオール試験法 制定1件
- ③ FRP試験板作成方法 制定1件
- ④ エポキシ樹脂 改正1件

平成20年度は、通期で約10件程度のJIS原案作成を見込んでいる。

以上